

学級役員決定

平成21年度第1学期の学級役員が決まり、4月21日の朝の全校集会で、任命書を渡しました。本校では3年生以上の学年で学級役員を選出しています。勿論、1、2年生でも担任の先生の考えで、学級づくりに生かすため学級のまとめ役として会長、副会長を選出している場合もあります。

会長、副会長、書記は学級役員として、会長を中心に学級会や学級活動の運営に力を発揮します。代表委員は、児童会活動の代表委員会に参加し、クラスの意見を述べたり、代表委員会で決まったことを学級に伝えたりします。

7人の学級役員が力を合わせて、今よりもっと楽しい良いクラスづくりに頑張ってもらいたいと思います。

平成21年度

1学期学級役員

学 級	会 長	副会長	書 記	代表委員
3年1組	大間 俊	平澤 由衣	長田 悠利	青木 あや
		今村 洋介	村上 光	三村 美桜
3年2組	宮澤 侑里香	齊藤 晴飛	齊藤 陽茉梨	島 佑輔
		小林 紗也	福士 楓	山崎 倫太郎
4年1組	浅川 豪	長田 拓真	本宮 康平	吉川 叶也
		山本 泰	小澤 愛香	櫻田 鈴
4年2組	今村 光臣	飯沼 太一	小林 真子	保延 亮太
		野澤 諒人	篠崎 唯香	大房 優奈
5 年	五味 岳士	長田 空大	加藤 栞	渡邊 晃平
		小宮山 万貴	佐野 侑香	松澤 明日香
6年1組	弓田 美希	大久保 翔伊	野澤 賢人	小林 優真
		戸田 敦也	山本 浩平	高橋 拓海
6年2組	小宮山 奈央	坂本 駿	田丸 翔大	村松 聖太
		落合 かいり	大澤 将太郎	平澤 由梨

こんな時どうしたら(母子分離不安への対応)

新年度が始まり1ヶ月が過ぎようとしています。子どもたちは毎日楽しく学校生活を送っています。でも、子どもたちのなかには新しい生活に直ぐには馴染めない子もいるかもしれません。そんな時の興味深い対処事例を紹介します。

(1)事例

朝、子どもが学校への登校を渋っています。

「学校に行きたくない。」

と、だだをこねています。保護者(お父さんまたはお母さん)は、

「そんなことを言っても困るでしょ。お母さん(お父さん)は忙しいのだから。あなたに構ってあげられないのよ。」

と、言い放ちます。

すると、子どもは益々大声で泣き、その場から動こうとしません。お母さんはほとんど困り果て、

「学校で何か嫌なことでもあったの。」

と聞く。それでも子どもは、

「いきたくない。」

と叫び続ける。お母さんは少し冷静になって、

「学校に行かなくてどうするの。家に居たって良いことないでしょ。お母さんは仕事に行ってしまうし、一人でお留守番よ。学校に行けば美味しい給食もあるし、友だちとも遊べるのよ。」

と、説得する。しかし、どのように話しても学校に行こうとしない。ほとんど困り果ててしまう。こんな時、あなたならどうしますか。

(2)説明

あまり見かけない光景かもしれませんが、これと似たことはあるかと思います。こんな時、どのような対処方法が効果的なのでしょう。これから述べる方法が必ずうまくいく、という保証はありませんが1つの方法として参考にしてみてください。

この症状は心理学用語で母子分離不安(ぼしぶんりふあん)といいます。この場合、子どもは母親(または父親)と離れることに不安を感じています。ですから無理矢理引き離そうとするとパニックを起こします。この様な時には、逆の方法が効果的だといわれています。「離すためには近づける」というのです。

(3)方法

子どもをぐっと抱きしめます。そして優しく、

「そうなの、そんなに学校にいきたくないの。」

と言って抱き続けます。

しばらくすると子どもは、

「ママ(またはお母さん)ありがとう。ぼく(わたし)学校に行くよ。」

と、自分から言い出します。

(4)補足説明

子どもの心を見てみると、心の中(深層心理)では、「行きたくない」という表現で親の愛情を確かめようとしています。このとき、無理矢理行かせようとするのは、子どもには親からの愛情が確認出来ないこととなります。だから不安になります。この時、親に抱きしめられるという行為、そして、「そうなの、学校にいきたくないの」と、自分の思いが受け入れられることで、子ども心にも自分の気持ちが分かってもらえた(母親や父親からの愛情が確認できた)と思い安心するのです。

ここで、次のような質問が投げかけられます。「もし、抱き続けて、こどもが何も言っていなかったらどうするのですか。」もっともな疑問です。でも、子ども心にも、大好きなお母さん(お父さん)を困らせるようなこと(仕事を休まなければならない、とか勤め先に遅刻する)は避けようとするものです。大切なことは日頃から親子の会話を増やし、親子の心の絆(きずな)をつくっておくことでしょう。それと共に、ここに紹介した事例は1つの基本的なパターンなので、状況や場に応じて臨機応変に工夫することも必要だと思います。